

# 令和6年度第1回「防府市農林業政策懇話会」 議事録等

## ■開催日時・場所

令和6年11月21日（木）午前9時00分から午前10時30分まで  
防府市役所 1号館3階 南北会議室

## ■次第

- 1 令和6年度農林業関係事業の進捗状況
- 2 防府市の農林業の活性化に向けた意見交換

## ■配布資料

	資料名
1	令和6年度農林業関係事業進捗状況
2	農道牟礼小野線整備事業の進捗状況について

■委員等出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	防府市長	出席
農林業関係団体	石丸 和美	山口県農業協同組合防府とくち統括本部本部長	代理 出席
	代理：上田敏之(山口県農業協同組合防府とくち統括本部 営農経済部長)		
	渡邊 浩信	山口県中央森林組合 組合長	出席
	藤井 伸昌	防府市農業委員会 会長	出席
農業関係者	岡本 拓実	(株)ファーム大道 代表取締役社長	出席
	池田 英雄	畜産	出席
	安村 真喜	施設野菜	欠席
農林業の知と技の拠点	笹井 雅之	山口県農林総合技術センター 企画戦略部 部長	出席
やまぐち農林振興公社	沖 敏雄	担い手・新事業支援部 部長	出席
商工業団体	松田 和彦	防府商工会議所 専務理事	出席
流通関係団体	松原 正範	株式会社丸久 執行役員青果部長	出席
観光関係団体	中谷 泰	防府観光コンベンション協会 会長	出席
消費者	阿部 幹恵	防府市生活改善実行グループ連絡協議会 会長	欠席
公募	熊安 悦子		出席
	五島 淑子		出席

## ■会議録

### 1 主要事業等に関する情報提供

---

- ・令和6年度農林業関係事業の進捗状況  
事務局から資料にて説明

### 2 各委員による意見

---

- 会長 | 委員の皆さんから御意見・御提案をいただきたい。
- A委員 | 『防府市独自の土地利用型農業』とあるが、こういったところが防府市独自なのか。
- 会長 | 防府市に県の農林業の知と技の拠点や農業公社があることを活かして、農業公社が受託した遊休農地を新規就農希望者の研修ほ場とし、そこで実地経験を積んでもらうことで、新たな担い手の育成と耕作放棄地の解消に同時に取り組むという点である。
- B委員 | 現在、山口県立農業大学校の土地利用学科の学生は2年生が11名、1年生が6名いる。今年度に締結した三者協定を契機に、農業公社での雇用という就職の選択肢が増えたことはありがたく思っている。  
今年度になって、農業大学校の授業の中で農業公社の事業等の説明をしてもらった。今後も、学生にそのような情報提供をしていただきたい。
- C委員 | 農業大学校には高校卒業後の学生とは別に社会人研修というものがあり、そのリクルートにも力を入れている。県内はもちろん、東京、大阪、福岡にも行って幅広く人材を募っており、県内で就農してもらえるよう導いている。
- D委員 | 農業大学校の土地利用学科の第一期生に内定を出した。  
農業大学校には市内だけでなく市外や県外出身者が入学され、市内法人に就職しようとした場合、住宅費用等が負担となる。市外出身者でも防府市に就職しやすいよう家賃等への支援をお願いしたい。  
また、若い人に中型免許を取らせたいのだが、普通免許を取ってから2年経過しなければならないという制限がある。1年に短縮するには、別に講習を受ける必要があり、それには費用負担が生じる。そういった部分にも支援があると助かる。
- 会長 | 農業大学校の土地利用学科の第1期生に市内の法人から内定が出て、うれしく思っている。このことを成功事例として、新規就農の取組みを進めていきたい。また、今後、新たな課題や御意見があると思うのでそれらを踏まえた上で、防府市が土地利用型農業のモデルとなるようにしっかりと取り組んでいきたいと思う。

E 委員

農業公社の目的は、耕作放棄地の解消と担い手の育成の 2 本柱を主としている。そのための取組のひとつとして、昨年、約 50 a の遊休農地で農業公社が水稻の作付けを行った。今後は、これを 1 ha 程度に広げて、新規就農希望者の研修ほ場とし、研修終了後には市内の法人への就業や、独立就農をしてもらいたいと思っている。

三者協定締結後、農業大学校で農業公社とはどういったものかという紹介の場も設けてもらっており、今後、ぜひとも卒業生を農業公社で受け入れたいと考えている。

会長

ありがとうございます。農業公社の取組みが成功するよう、市としても土地利用型農業の推進に取り組んでいきたいと思えます。

そのほか、御意見等がありますか。

F 委員

これから寒い時期になると、牛乳の消費が落ちてくる。

酪農において、飼料の状況を言えば、2 年前の高止まりの状況から、ちょっと下がったくらいで、なかなか資金繰りが厳しい状況が続いている。このような状況の中、ファーム大道等と一緒に、国の事業に基づいた耕畜連携に取り組んでいる。

希望として、農業大学校の畜産学科の卒業生に防府酪農協同組合に就職して、酪農ヘルパーをやってもらいたい。

会長

酪農家にとっては飼料の値段は非常に重要な事項だと思う。

生き物を扱う酪農家は毎日休むことができず、酪農ヘルパーの必要性については、何十年も前から課題として話がある。防府市には農業大学校があり、そこで畜産について学ぶ学生がいるので、防府酪農協同組合への就職や酪農ヘルパーにといった話もさせていただければと思う。

G 委員

飼料費の高騰の原因として、運搬費の高騰があるのか。

F 委員

輸送費を原因とするところが大きい。

昔は、畜産飼料は外国産ばかりだったが、現在は国産飼料が半分近くになっている。国産飼料を作る農家が増えれば耕作放棄地の解消にもつながり、畜産農家としても高騰している外国産飼料に依存せずにやっていけるのではないかと考えている。

G 委員

現在、運送業界では 2024 年問題や 430 休憩の基準が設けられるなど、いかに効率的に輸送を行うかということが重要になっている。防府市で牟礼の拠点に農業公社を移転するのも効率化だと思う。市内では、国道 2 号富海拡幅や防府環状線などによって交通網が発達しているの、新築地や潮彩市場などがある市の東側に流通の拠点を集めるのも、効率化の方法ではないかと思う。

効率化により、農家の方が作られたものを新鮮なうちに消費者の元に届けるとか、輸送費のコストを下げるといったことが農業の振興には大事だと思う。

会長

国道2号の拡幅などにより市内の交通の便が良くなると思うので、防府市が輸送の拠点になればいいと思う。そのことで、農家と運送業者の両方にメリットがあるような方法を考えていかなければならない。

潮彩市場の話が出たが、現在、潮彩市場の賑わい創出や施設の活用方法について、関係者で話をしている。潮彩市場に直売所を設けたらどうかとか、青果物を潮彩市場で売ったらどうかといった話もある。

植松に公設の青果市場があり、そのこととの関係や輸送の効率化という点から、防府市の青果市場等のあり方などについて御意見等をお聞きしたい。

H委員

青果市場のあり方として、例えば潮彩市場への移転も効率化だと思う。併せて市場のDX化や、防府農業の魅力を拠点となる市場から発信できると良いなと思っている。

観光振興等の点からも、防府市農業の魅力を若い人にわかりやすく発信してほしい。

現在、市場に出ている農作物や水産物の量が減って、消費者の購入価格が上がっているが、それが生産者の収入に反映されていないように思う。

自分が飲食業をしている中で、食材を仕入れようとした際、県外からでも仕入れやすい仕組みとなっている地域があり、たとえばスマート農業であったりDX化であったりの先進地なのだと思う。そのような先進地から学ぶことも色々あるのではないかな。

会長

長期的に見ていくと、農業のDX化は進めていかないといけないと考えている。

また、防府市農業の魅力という点では、防府市に農林業の知と技の拠点ができたということも大きな魅力のひとつだと考えている。魅力の発信という点でいえば、市場などの消費者に見えるところを変えていくことが、防府市の魅力を発信することになるのではないかと考えている。

I委員

私は農業の楽しさを様々な人に知ってもらいたいと考えている。その方法として、自分が作ったものを加工して製品化できないかと考え、農林業の知と技の拠点のオープンラボを活用して粉末化してみたが、そこでは製品化まではできないので、製品化するために長門市まで行った。防府市内に製品化するための施設があれば、農作物の加工が容易になり、防府市の農家も活気づくのではないかな。

また、農地への太陽光発電施設の設置について非常に危惧している。農地にどんどん太陽光発電設備が設置されており、小さな農地であっても農地として守っていききたい。そのために、市、県、国で農地を守るための手立てを講じてもらいたい。

会長

ありがとうございます。

太陽光発電施設の問題についても、色々と言われることがあるかと思いますが、そのた

めにも農業公社の体制強化などにより、防府市の耕作放棄地をなくすことが、農地を守ることにつながるのではないかと考えている。

J 委員

弊社では地産地消の取組みを進めており、大型店舗では県産品のコーナーを設けて販売をしている。特に地元防府市では力を入れており、ぜひ弊社の店舗を地元野菜の販売促進の場として活用していただきたいと考えている。弊社としても、地元野菜を積極的に販売していきたい。

市場のあり方について、青果市場の機能を潮彩市場に移転することも考えられているかもしれないが、弊社としては場所が近くなるので、反対する理由はない。

会長

農産物の病虫害被害等について何か御意見がありますか。

D 委員

ジャンボタニシの食害について、ジャンボタニシは水の深いところで若い苗を食べるので、今年度から実験的に乾田直播をやっている。食害が少なかったので、来年から本格的に実施しようと考えている。

E 委員

ジャンボタニシに対して、薬剤散布などの対応をしている農家もあるが、あくまで対症療法でしかなく、撲滅させるには地域でまとまって対応する必要がある。地域をまとめるのも大変だが、地域でまとまってジャンボタニシ対策をしたいという要望があれば市などで支援をお願いしたい。

K 委員

ジャンボタニシによる被害については、生産者から報告や要望をいただいている。

ジャンボタニシの食害は苗が柔らかい時期に発生するので、薬剤散布により苗が成長するまでジャンボタニシを痺れさせる方法があるが、これはジャンボタニシを減らす効果はない。減らすのであれば田植え前と稲刈り後の田に石灰窒素を湛水散布する方法となる。これらの対策は個人単位では限界があり、ジャンボタニシを減らそうと思えば地域ぐるみで対応することが必要と思う。

また、作況指数が11月20日に発表され、全国で101、山口県で103の「やや良」であった。

今年はカメムシの発生注意報の発令があり、カメムシ被害による米の等級の格下げも見られた。

会長

カメムシの駆除方法はこういったものがありますか。

K 委員

カメムシが発生すれば薬剤防除となるが、重要なのは、畦畔の草刈りや休耕田の管理を早めに行うことで、カメムシの巣を無くして発生を抑制することが重要である。

会長

これらの病虫害対策は、地域ぐるみで対応していくということが大事なのだと思う。

病虫害への対応は長きに渡り課題となっているため、これに対して何ができるかを検討していく必要がある。

農林漁港整備課長から説明があったが、地元産木材を使用したインクルーシブ遊具や、新しい市庁舎にも木材を使用している。こういった木材の活用について、御意見や御提案はありますか。

L 委員

防府市は公共施設への木材利用を積極的に推進されている。また、イベント等を通じて多くの人に木材と触れ合う機会を設けられており、林業に携わる者として大変感謝している。林業の根幹である伐採・植樹・保育についても推進されており、今後とも更なる新植の拡大をお願いしたい。

また、森林整備の一環として森林公園等へのアクセス道路の整備をお願いしたい。

木製遊具が入ればそこで子供が遊んでくれ、その様子を見ている親の目にも留まることで、林業に目を向けるきっかけになってもらえるといい。

会長

三谷や矢筈には森林公園があり、せっかく整備したので多くの人に来てもらいたい。また、木製遊具を設置して子供たちに地元産木材にしっかりと触れてもらいたい。

B 委員

林業分野では、50年生以上のスギやヒノキの人工林が約6割を占めており、これらの森林で伐って使って植えるという循環を進めていかなければならない。そのような中で、防府市では不特定多数の方の目に触れるところに積極的に木材を使っただき、大変感謝している。今後も、県産木材の利用を推進していただけるとありがたい。

会長

森林環境譲与税や県の森林づくり県民税などを活用させてもらいながら市民の皆さんに森林というものに親しみを持ってもらえるよう取り組んでいきたいと思う。

その他御意見等ありますか。

C 委員

青果市場を潮彩市場に移転するとなった時に、そこで食育のための料理教室を開いたり、農育の観点から消費者に農業について知ってもらう機会を設けてほしい。

また、市場機能を集約させることで、令和版の楽市楽座を形成し、ここを拠点に輸送業との連携等、様々なコラボレーションも考えられるのではないかと。

E 委員

農家がお米を作るのに必要な肥料や農薬、農機具等の価格が近年高騰しており、これまで、これを価格に転嫁できなかった。今年は米価が平年比150%くらいになっており、JAに供出する際の概算金も上がっているが、それでも多くの農家では概算金と生産費とが同じくらいという現状を消費者にも理解してもらいたい。

農家は高齢化が進む一方で、他産業の平均賃金や最低賃金はどんどん上がってきており、農家で同じような賃金を出すことは非常に難しい。

先ほど酪農ヘルパーの話があったが、防府市の農福連携に対する支援などは大変あり

がたい。それに加え、前回の懇話会の中でも提案したが、公務員の副業についてもぜひ考えてほしい。

会長

多くの意見をいただいた。これから予算編成の作業に入っていく中で、参考にさせていただき、長期に渡るかもしれないが、しっかりと検討していきたい。

閉会